

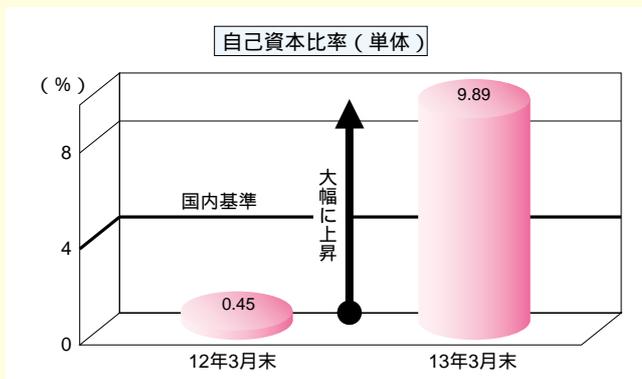
# 「浅井頭取にインタビュー」

## Q.[ ちば興銀はどのように変わりましたか? ]

### 「自己資本を増強し、財務体質を磐石に!」

当行は、昨年8月に株式会社富士銀行、安田生命保険相互会社、安田火災海上保険株式会社による約280億円の増資と、9月には株主の皆さまのご理解ご協力のもと433億円の減資を実施するとともに、公的資金約600億円を導入させていただきました。

これをもって一連の資本充実策を計画どおり完了し、銀行経営の健全性をみるうえで大切な指標である自己資本比率は平成13年3月末において国内基準の4%を大きく上回る9.89%となり、自己資本は磐石なものとなりました。



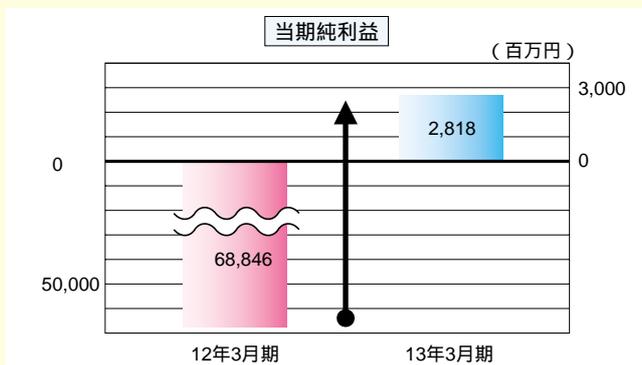
### 「経営体制の基盤 経営インフラ を刷新」

当行は、昨年8月の第三者割当増資により、富士銀行の持分法適用関連会社となりました。

これを機に、経営体制の抜本的見直しに着手し、富士銀行のノウハウ・スキルなども積極的に導入を進め、経営インフラ、すなわち、営業体制・各種リスク管理体制などの経営体制を大幅に刷新いたしました。

### 「業績も急速に回復し、黒字転換!」

全行一丸となって業績回復ならびに財務の健全化に取り組んだ結果、業績は急速に回復、4期ぶりに黒字に転換し、当期純利益28億18百万円を計上することが出来ました。



## Q.[ ちば興銀の経営戦略について説明願います ]

### 「当行の経営目標」

当行の経営目標は、経営体質の早期かつ抜本的な再構築を進め、経営の自立・安定を図り、千葉県に根づく優良地域金融機関として再生していくことです。

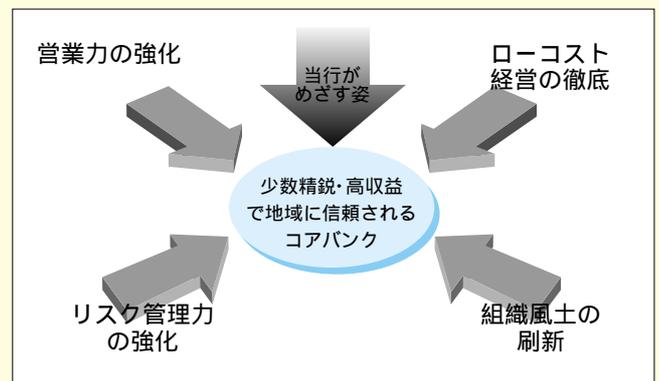
### 「当行の目指す姿」

また、当行の目指す姿は、「少数精鋭・高収益で地域に信頼されるコアバンク」であり、具体的には「経営効率が地銀トップクラスの銀行」、「圧倒的な提案力・情報提供力を誇る銀行」、「少数精鋭の銀行」の実現です。

### 戦略プラン「FOR NEXTAGE 50」

#### -「4つの重点施策」-

この実現に向け、前年度より戦略プラン「FOR NEXTAGE 50」で掲げた「4つの重点施策」、「営業力の強化」「ローコスト経営の徹底」「リスク管理能力の強化」「組織風土の刷新」に全力で取り組んでまいりました。今年度も引き続き、この4つの重点施策を徹底的に進めてまいります。



### 「攻めの営業」への転換

経営インフラが飛躍的に向上しましたことや一人ひとりの行員の力が着実についてきたことを受け、今年度は、徹底した「攻めの営業」へ転換し、業績の向上、お客さまのお役に立つ営業をより積極的に展開していきます。

## Q. [「FOR NEXTAGE 50」の「4つの重点施策」とは、具体的にどのようなことですか? ]

### 「営業力の強化」

#### エリア法人営業部を創設

まず営業力の強化として、平成13年4月からエリア営業推進体制の拡充強化を狙いとして、従来のエリア法人担当部長制度を発展的に改組し、各エリアにエリア法人営業部を創設、新たに11名を戦力投下いたしました。主に地元中小企業向け貸出の増強を進めてまいります。

#### 住宅ローンセンターの拡充・強化

同じく平成13年4月から新たに柏住宅ローンセンター(柏支店内)を開設するとともに、従来の千葉駅前・津田沼両住宅ローンセンターの人員も増強し、住宅ローン推進体制を大幅に強化いたしました。これに伴う人員の戦力投下はプラス14名です。

#### フィナンシャルプロダクト推進室(FP推進室)を設置

富士銀行グループとの連携強化により高度なニーズに対応できる体制、圧倒的な提案力・情報提供力を誇る体制の構築を目指し、平成13年4月からプライベートバンキング室(PB室)を改編・強化し、人員も増員し、フィナンシャルプロダクト推進室(FP

推進室を設置いたしました。

高度な専門性とマーケットに即応した体制によりお客さまニーズへの対応力を強化し、一段とコンサルティング機能を充実させ個人・法人取引の強化を図っていきます。

また、事業金融力を強化し、起業の支援・上場支援・経営支援などを積極的に行ってまいります。なお、このフィナンシャルプログラム推進室のメンバーの多くを各エリアに駐在させることにより、各地域に根ざしたお客さまニーズ即応力を高めた体制にいたしました。

投信アドバイザーを全エリアに配置

お客さまの資産運用ニーズの変化に、より的確に対応すべく、新たに投信アドバイザーを全エリアに配置し、投資信託の販売推進体制を強化いたしました。

## 「ローコスト経営の徹底」

営業店業務の効率化

当行再生に向け、今年度も経営効率の一層の向上を図ってまいります。

営業店に課制を導入することにより、フラットで機動的な営業店運営体制を構築いたします。また、営業店における安定的な業務運営と事務水準の維持・向上を図るために総合事務部内に「教育・支援担当」を新設し営業店をサポートしていきます。

また、店外ATM保守管理業務の見直し、担保不動産評価業務の集中処理拡大等による営業店業務の効率化を精力的に推進いたします。

少数精鋭による経営の効率化

また、本部業務の見直しによるアウトソーシング拡大等を図り、平成15年3月末には、総人員1,430人を実現してまいります。

平成11年度以降店舗の統廃合を進めており、平成13年9月までに71か店体制（一般店60か店、個人特化店11か店）といたします。

基幹系システムの共同化 / アウトソーシング

今般、当行は株式会社NTTデータの「地銀共同センター」に参加することを決定いたしました。これにより最速、平成16年5月より、システムインフラが大幅にジャンプアップするとともに、システム関連コストの削減が実現できる見込みです。この決定は、「選択と集中」を行うものであり、基幹系システムの自前主義から決別し、先進のITベンダーに任せ（選択）、限られた経営資源は「戦略情報系システム」に配分（集中）して行くことといたしました。

## 「組織風土の刷新」

銀行業務の各分野ごとに専門性の高い人材を育成するとともに、ポスト公募制の対象拡大・主要ポストへの若手登用による組織の活性化、また成果主義に基づく人事評価体系の導入などを図ってまいります。また、研修体系を大幅に強化、少数精鋭の体制作りを図ってまいります。

## 「リスク管理力の強化」

与信業務・信用リスク管理の徹底的な再構築を図るべく、帳票、規程、マニュアル等の基本ツールを整備し、事業金融強化



千葉興業銀行頭取 浅井 和彦（あさい・かずひこ）

1942年（昭和17年）生まれ。慶応義塾大学卒。  
1964年（昭和39年）4月千葉興業銀行入行。  
1999年（平成11年）12月頭取就任。

プログラムを導入、融資に強い人材の育成、審査ラインの増強、支店の臨店指導実施等、本部・営業店のリスク管理体制の強化・再構築を更に進めてまいります。

事業金融強化プログラムの強化

事業金融強化プログラムに基づいて融資に強い人材の育成を目的とした研修会を昨年より強化・実施してまいりましたが、更にお取引先を正確に理解把握するための研修の充実を実現してまいります。

## Q. [不良債権の処理についてはどのように進めていくのですか？]

SB（サウンド・バンキング～不良債権処理を推進し、健全な銀行を目指す）体制の強化

不良債権の削減は、当行の最重要経営課題であり、SB会議を設置、対応方針・責任体制などを明確にし、本部・営業店が一体となって取り組みました。平成13年3月末の金融再生法による正常債権を除いた「開示債権」比率は13.0%と前期末比2.4%縮小いたしました。

今後は、本部・営業店一体となった体制を更に強化し、不良債権の削減、開示債権比率の縮小に取り組んでまいります。

同時に、財務の健全化、不良債権の処理に不退転の決意で取り組むお取引先と力を合わせ、各社の早期再生、早期健全化を実現していく努力こそが、地元のお客さまの当行への期待であり、当行の役割であるとの基本認識に立ち、その実現に力を注いでまいります。

## Q. [「平成13年度の業績見通し」はどうでしょうか？]

### 「平成13年度の業績見通し」

平成13年度の業績見通しは、経常収益では前年度比マイナス27億円の483億円を見込んでいますが、一般貸倒引当金繰入前の業務純益では164億円程度と前年度比12億円の増加を見込んでおります。また、経常利益は48億円、当期純利益は33億円と、ともに平成12年度の実績を上回る見込みであります。これらの予想計数は、更なる健全化のために、地価下落等の予想するリスク要因に見合った不良債権処理を見込んだものとなります。

連結ベースでは経常収益529億円、経常利益51億円、当期純利益35億円を見込んでおります。

## [ 当期 (平成13年3月期) の業績について ]

### 「経営の環境」

当期のわが国経済を概観しますと、前半はIT関連需要等に支えられ、緩やかな景気回復基調を維持しましたが、期後半は米国経済の減速等もあり、株安や円安が進み景気の後退色が強まりました。

当行の営業基盤である千葉県においては、厳しい雇用情勢、所得の伸び悩み、個人消費の足踏み状態が続き、総じて景気回復に力強さの欠ける展開となっています。特に地価動向については、公示地価の下落率が、住宅地、商業地ともに全国一を記録する厳しい状況が続きました。

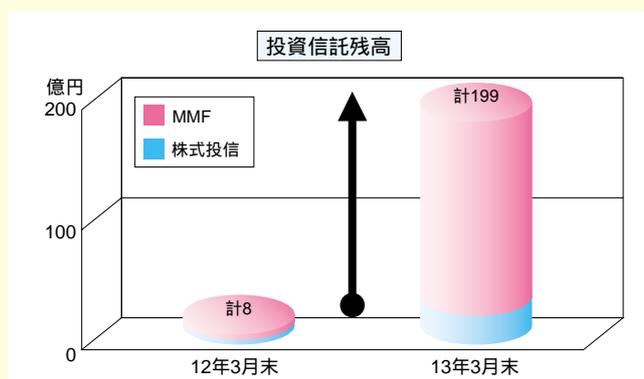
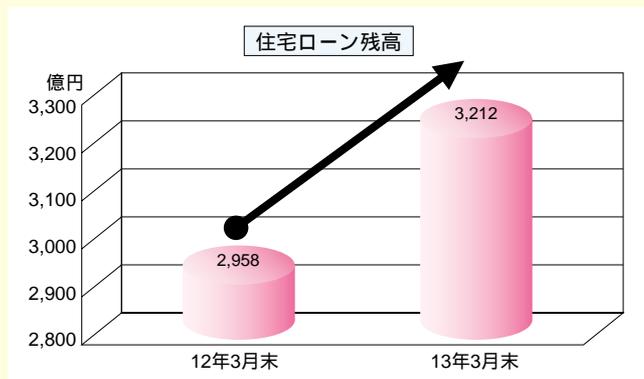
一方、金融業界においては、都市銀行を中心とした4大金融グループの誕生や証券・保険等業態を超えた提携が進むなど、新たな再編の動きが相次ぎました。また、地方銀行においても提携等による競争力強化の動きやインターネットバンキング等に代表される新しいチャネルを拡充する動きが本格化いたしました。

### 「投資信託、住宅ローン好調！」

預金については、10か店にのぼる店舗の統廃合や投資信託などの増強に努めたこともあり、当期末の預金残高は、譲渡性預金を含め平成12年3月末比852億円減少し、1兆7,972億円となりました。

貸出金残高については、前期末比209億円減少、1兆3,940億円となりました。ただし、不良債権のオフバランス化による貸出金の減少額356億円を補正しますと実質ベースでは増加しております。

これらを、今期の重点戦略別に見ますと、住宅ローンは前期末比254億円増加し、投資信託残高も190億円増加するなど極めて好調に推移いたしました。

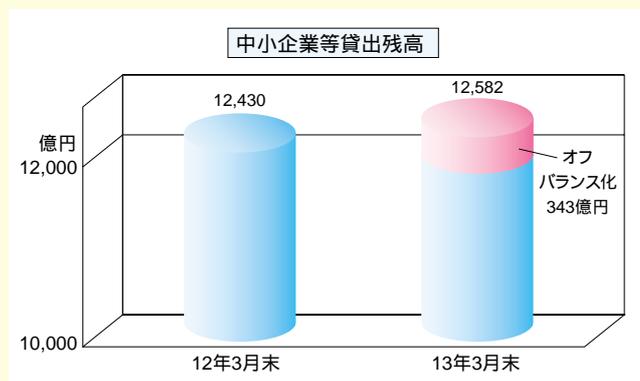


### 用語解説

不良債権のオフバランス化とは、貸借対照表に計上されています貸出金のうち、回収不能分を直接減額し貸借対照表から除外する会計処理です。

### 「中小企業等貸出も堅調！」

個人向け貸出を含む中小企業等貸出は1兆2,238億円となりました。これは、表面的には平成12年3月末比192億円減少していますが、不良債権のオフバランス化を行っていませんので、これを補正した実質ベースでは、151億円増加しております。

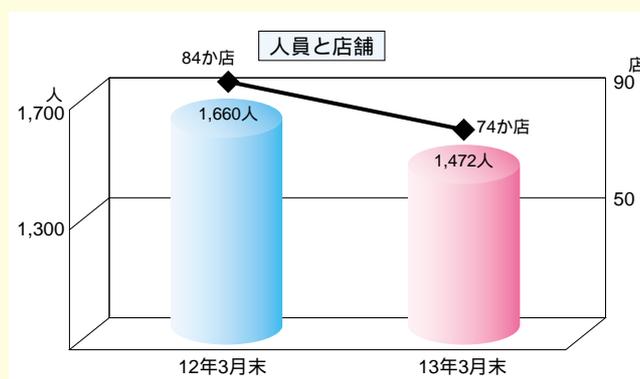


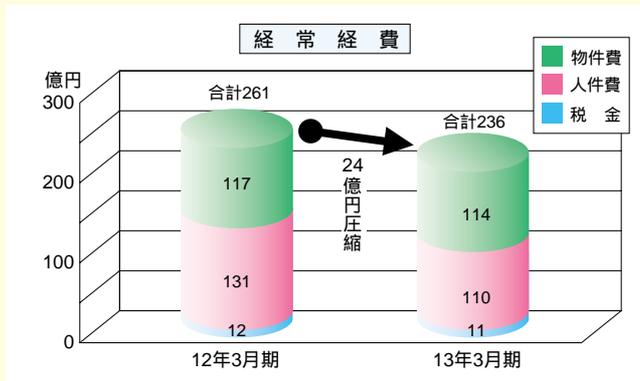
### 「有価証券 安定的な資金運用」

有価証券については、安定的な資金運用を図る観点から地方債・金融債を中心に債券を積み増した結果、平成12年3月末比466億円増加し、4,130億円となり、受取利息なども計画どおりの成果を上げることができました。

### 「ローコスト経営の徹底 経費圧縮も順調！」

営業推進面に注力する一方で、ローコスト経営の徹底を図るべく、計画を上回るスピードで一段の業務の効率化・アウトソーシング等を進めました。店舗の効率化については、当期末現在の総店舗数は平成12年3月末比10か店減少、74か店となりました。また、人員は前期末比188人減少し、総人員は1,472人となりました。これらの効率化を推進した結果、人件費・物件費を中心とした経常経費は前期比24億円減少し、「経営の健全化のための計画」を上回る削減効果を実現することができました。





### 「業務面・組織面」

#### リスク管理体制の強化

市場関連リスクの管理体制の強化として「リスク評価室」・「市場業務室」を新設し、リスク管理部門、事務管理部門、市場部門を完全に分離した管理体制といたしました。

#### お客さまサービス体制の充実

官公庁・地方公共団体への活動強化のために本店営業部内に「公務渉外室」を設置、更に、従来の「お客様相談室」を拡充し「お客さまサービス室」といたしました。また、「CS推進本部」を設置（CSとはお客さまの満足度）お客さまへの感謝の気持ちを全行員がいかに表現し実践していくかを工夫し徹底していくために、CSナンバー1運動を全店あげて推進、確かな手応えを感じるまでに至っております。

新商品・新サービスの提供については以下のとおりであります。

#### 新商品・新サービスの提供

<平成12年4月～7月，同年11月～12月>

金利2倍の優遇定期

『VIVA! 2000』の発売

<平成13年1月～3月>

『教育ローン』の

金利優遇キャンペーン

<平成11年から順次>

富士銀行、館山・銚子両信金との

『ATM相互利用サービス』開始

郵貯と『ATMオンライン提携』開始

<平成13年1月には>

更に、『郵貯との入金サービス』開始

当行ATMの入金時間を

午後9時まで延長

（最長）

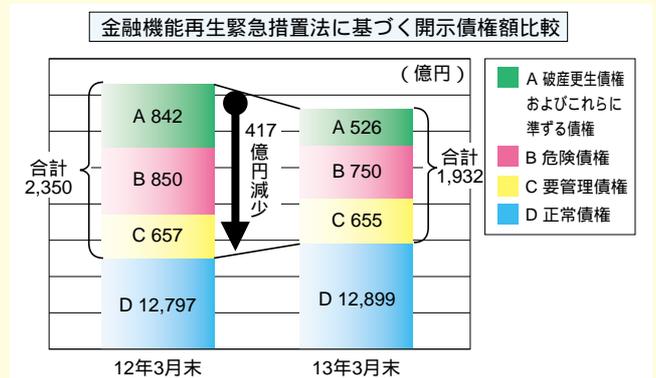
### 「財務の健全化、不良債権の削減」

当期も、財務の健全化を一層進めるために、有価証券の減損処理や全国一の地価下落率にも厳格かつ適切に対応し、不良資産に対する十分な償却・引当てを進めてまいりました。

すなわち、当行は、昨年度の決算において時価会計の導入に備え、時価が30パーセント以上下落している株式について前倒しで償却を実施し含み損を一掃しておりますが、当期は市場性のない有価証券のうち短期的に回復見込みのない銘柄について、資産の健全性を高めるため評価減を実施したほか、ゴルフ会員権や所有不動産についても減損処理を進めました。

#### 金融再生法における正常債権を除いた開示債権

また、金融再生法における正常債権を除いた開示債権の当期末残高は前期末比417億円減少し1,932億円となり、総与信額に占める割合は、13.03パーセント、カバー率は86.06パーセントとなっております。

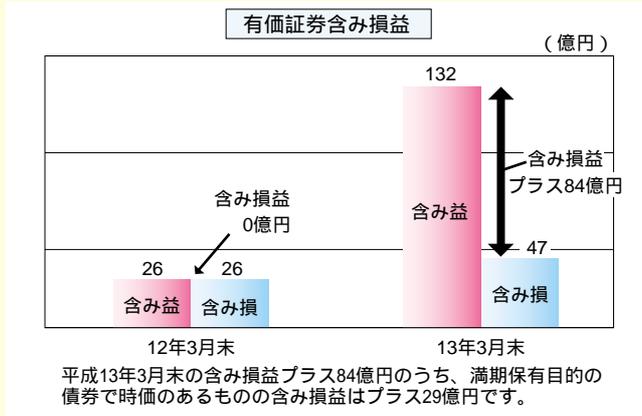


#### 退職給付債務に係る会計処理も着実に

退職給付債務に係る会計処理についてですが、当期の決算から対応しており、会計基準変更時の差異処理額は92億73百万円です。これを、当期から15年で償却処理することとし、6億18百万円を償却処理いたしました。

### 有価証券の含み損益

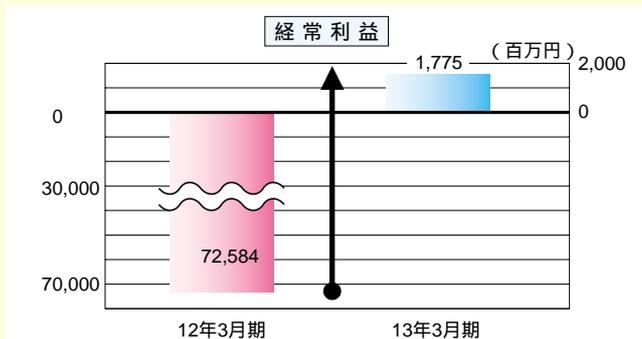
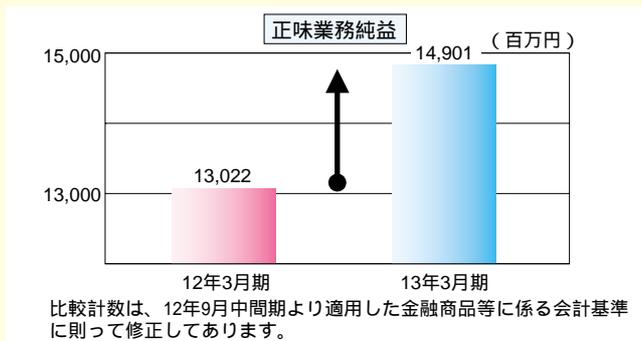
有価証券の含み損益については、グラフ表示のとおり、含み益から含み損を差し引いたトータルでの含み益は当期末現在84億65百万円となっております。



### 「業績も急速に回復し、黒字転換！」

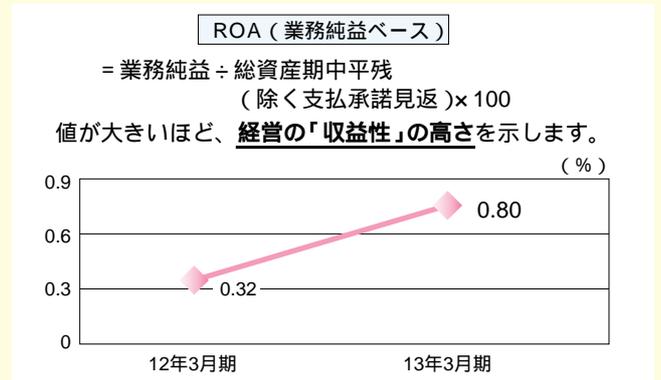
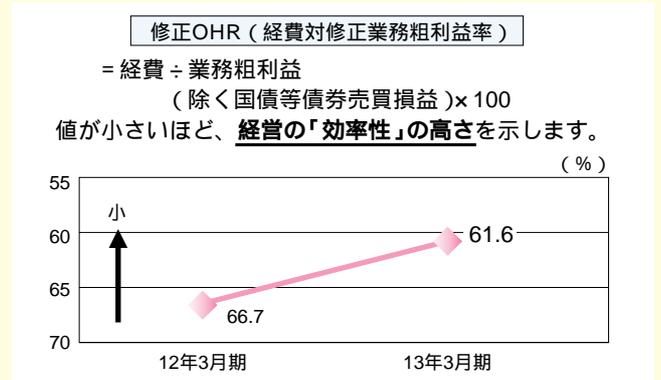
業績については、急速に回復し、当期純利益は28億18百万円を計上することが出来ました。

なお、銀行の収益力を正確に表す指標といわれている正味業務純益は149億1百万円を計上いたしました。また、経常利益は、不良債権処理額の前期比約705億円減少や株式関係損益が前期比20億円増加したことなどにより、対前期比743億円増加して17億75百万円となりました。



### 「経営指標 修正OHR、ROA共に大幅に良化！」

経営の「効率性」を示す指標である修正OHR 経費対修正業務粗利益率は対前年度比約5ポイント、また、経営の「収益性」の高さを示す指標であるROA 総資産利益率も0.47ポイントと、いずれも大幅に良化しています。



## 【当行の考え方】

### 「リスク管理体制」

#### リスク管理の基本方針

当行はリスク管理を経営の重要課題として位置づけ、銀行業務に内在するリスクの所在、規模、性質に応じた適切なリスク管理体制を構築のうえ、リスクを正確に把握することにより経営の健全性の維持・向上に努め、経営基盤をより強固なものとするを基本方針としています。

#### 信用リスク管理体制

与信業務に係る信用リスクを当行の抱える最も重要なリスクと認識し、管理体制の整備に努めています。具体的には営業推進部門から分離独立した審査部門において管理する体制としています。個々の案件審査は与信業務の基本原則等について定めた与信業務の規範に基づき財務状況等与信先の実態把握を行った上で資金使途、返済原資、保全状況等を総合的に判断して行うとともに、債務者格付や自己査定により定期的に与信先の実態把握に努め案件審査に活用しています。また、特定の業種、一債務者等への与信集中の状況を把握し与信集中の防止に努めています。さらに、集合研修、審査トレーナー等により営業店融資担当者、管理者の審査管理能力向上に努めています。

#### 市場リスク管理体制

市場業務に係る金利、株価等の変動による資産価値の変動が経営に与える影響を十分認識し、管理体制の整備に努めています。具体的には市場部門（フロント・オフィス）、事務管理部門（バック・オフィス）、リスク管理部門（ミドル・オフィス）を組織的に分離し相互牽制を図っています。また、銀行全体の市場リスクはALMによる管理としてALM委員会においてギャップ分析やベース・ポイント・バリュウ法等により計測されたリスク量、市場動向等の報告に基づき必要な対応策を検討・実施しています。

#### 流動性リスク管理体制

経営の安全性を確保するうえで安定的な資金繰りを維持することの重要性を十分認識し、管理体制の整備に努めています。具体的には、市場金融部において円貨・外貨一体の資金繰り管理を行うとともに、ALM委員会において経営環境、資金繰り状況、流動性確保状況等を勘案してリスクのモニタリングを行い必要な対応策を検討・実施しています。

#### 事務・システムリスク管理体制

全ての業務に事務リスクが所在することおよび事務リスクを軽減することの重要性を十分認識し、管理体制の整備に努めています。具体的には、事務取扱要綱等を整備するとともに、臨店事務指導や各種研修等により行員の事務水準およびモラルの向上に努めています。また、人為的なミス、不正を排除し、且つ能率的に事務を処理するために、事務プロセスの改善、機械化、集中化に取り組んでいます。なお、お客様からのお問い合わせ等に対しては、総合事務部内にお客さまサービス室を設置し対応しています。

システムリスクについては、コンピュータシステムやネットワーク等の故障、災害、誤処理、不正使用等の経営に与える影響の重要性を十分認識し管理体制の整備に努めて

います。具体的にはホストコンピュータなど重要なシステムや通信回線の二重化等バックアップ体制を整備する他、セキュリティポリシーを制定し、それに沿った管理体制の構築に取り組んでいます。

#### 統合リスク管理体制

各種リスクを管理するリスク管理部門のリスクを統合して管理する体制として、リスク評価室において各種リスクおよびリスク管理体制のモニタリングを行っています。

### 「コンプライアンス体制の構築」

当行ではかねてより「コンプライアンス（法令等遵守）」を経営の重要な柱として捉え、その体制の充実を図ってまいりました。

当行は、コンプライアンスを単なる法令の遵守に止まらず、広く社会的ルールや倫理も含む概念として捉え、その基本理念として「千葉興業銀行倫理憲章」を制定しています。

#### 千葉興業銀行倫理憲章

- 健全な経営と揺るぎない信頼の確立  
千葉興業銀行は、銀行のもつ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し、健全な業務運営を通じて揺るぎない信頼を確立します。
- 法令やルールの厳格な遵守  
千葉興業銀行は、法令やルールを厳格に遵守し、社会的規範にもとることのない誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
- 地域の発展への貢献  
千葉興業銀行は、地域の総合金融機関として、創意と工夫を活かした質の高い金融サービスの提供を通じて地域の経済・社会・文化の発展に貢献します。
- 反社会的勢力との対決  
千葉興業銀行は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは断固として対決します。
- 経営情報の公正な開示  
千葉興業銀行は、経営情報を積極的かつ公正に開示し、広く社会とのコミュニケーションを図り、透明な経営を行います。

具体的なコンプライアンス体制としては、監査部内に法務担当を置き、銀行全体のコンプライアンス体制を統括すると共に、全ての本部・営業店にコンプライアンス責任者を置き、コンプライアンス違反が発生しないように牽制すると共に、行員に対する研修等を行っております。

また、定期的に点検を行い、その結果に基づき全本部・営業店において「コンプライアンスプログラム（改善計画）」を作成し、研修などを計画的に実施し、コンプライアンス体制の一層の充実を図っております。

#### 金融商品販売法等への対応

平成13年4月から「金融商品販売法」「消費者契約法」が施行され、従来にも増して「お客さま」に配慮した営業体制が求められています。

当行では、「金融商品勧誘方針」を制定し、全営業所にポスターを掲示しました。更には「金融取引勧誘規程」「金融取引勧誘要領」を制定し、行員の教育・指導を徹底し、当行の経営理念の一つである「お客さまのために」の

具体的な実現を図っております。

また、銀行取引約定書を従来の差入れ方式から双方調印・双方所持方式とし、表現をわかりやすくしたものに改定いたしました。

更には、銀行取引約定書の解説書を作成し、お客さまがより契約の内容を理解しやすくなるように配慮いたしました。

なお、当行では、平成13年4月に、定期預金等の規定の見直しを行い、預金保険法第49条第2項に定める事由が生じた場合には、お客さまからのお申し出により、満期日（期限）が到来していないお客さまの定期預金等と当行に対する借入金等の債務とを相殺することができることといたしました。

### 「配当政策について」

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、健全経営を確保するため内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当に努めていくことを基本方針としております。

しかしながら、平成13年3月期については、全行員の力を結集して、4期ぶりに黒字転換となりましたものの、優先配当や将来にわたるいわゆる公的資金の返済源資の確保等を勘案いたしますと、内部留保は未だ薄く、より強固・より安定的な財務体質の確立が求められますことから、更に内部留保を厚くしていく必要があります。平成13年3月期の普通株式の配当につきましては、見送らせていただくことといたしました。

役職員一同、早期復配実現に向けて、更に経営の徹底的な効率化と収益力の向上、自己資本の充実に全力で取り組んでいるところでありますので、事情をご賢察のうえ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 「『ペイオフ』って」

「ペイオフ」とは、「預金保険制度」に加入している金融機関が万一破綻した場合、制度を運営する預金保険機構が破綻金融機関に代わって、預金のうち一定額を保険金として預金者に支払うことをいいます。ちば興銀を含む地方銀行や都市銀行など（\*）はこの制度に加入しています。

### 預金保護の範囲

項目	～平成14年3月末	平成14年4月～平成15年3月末	平成15年4月～
	ペイオフ凍結中	ペイオフ一部解禁	ペイオフ全面解禁
預金 決済性	全額保護		1000万円 までの 元本とその利息等が保護
以外の預金等 預金保険の 対象外の預金等			預金保険の対象外

平成14年4月からは決済性預金以外の預金等（定期預金・貯蓄預金など）については、1000万円までの元本とその利息等までの保護となります。従って決済性預金以外の預金等については、1000万円を超える部分については保護の対象外となります。

なお、決済性預金（当座預金・普通預金・別段預金）についてはさらに1年、つまり平成15年3月末までは全額保護となります。

平成15年4月からは、預金の種類にかかわらず全預金合算して1000万円までの元本とその利息等のみが保護の対象となります。いわゆる「ペイオフ全面解禁」となるわけです。

ただし、外貨預金、譲渡性預金、元本補てん契約のない金銭信託（ヒット、スーパーヒットなど）、金融債（保護預り専用商品以外のもの）は、預金保険の保護の対象外となります。（預金保険の対象外商品については、破綻金融機関の財産の状況に応じて支払われますので、一部カットされることがあります。）

なお、自己資本比率は、銀行の健全性をはかる指標のひとつですが、ちば興銀の自己資本比率は平成13年3月末現在、9.89%と国内基準4%を大きく上回る高水準にあります。引き続き更なる向上に努めてまいります。

\* 国内に本店のある預金取扱い金融機関が加入しています。

# トピックス

## 独自性あふれる数々の商品・サービス

### とってもおトク！コスモスクラブ

ちば興銀に給与振込をご指定の方、年金振込をご指定またはご予約の皆さまに、コスモスクラブに入会するだけでOKの「会員特典」と、一定のお取り引きが必要な「ポイント特典」をご用意。お得なサービスがいっぱいです。

#### ポイント特典

ちば興銀ATMの時間外引き出し手数料が無料！  
金利2倍の定期預金作成可能！（1年定期、100万円まで）  
など



狙った的は  
外さない。  
資産運用セットプラン  
「トリプルアローズ」

（平成13年5月14日～7月31日発売）  
投資信託・外貨定期預金と組み合わせれば、  
スーパー定期の金利が最高1.2%に！  
3つのプランからお選びいただける新しい  
提案です。



今年も大好評！

金利2倍の期間限定定期預金  
千葉ロッテ応援定期  
「マリーンズ優勝応援団2001」  
（平成13年4月16日～7月31日発売）  
スーパー定期「VIVA! 2001」  
（平成13年4月6日～9月28日発売）

### ますます広がるちば興銀のネットワーク

富士銀行 富士銀行とのATM相互利用サービス実施。

信用金庫 銚子信金・館山信金ともATM相互利用サービスができます。

どちらもそれぞれのATMで、一定  
時間内引き出し手数料が無料です。

郵便局 郵貯とのオンライン提携実施。  
全国25,000台の郵貯ATMでお引き  
出し・お預け入れ・残高照会が可  
能です。



### 電話の向こうがちば興銀の窓口です

#### テレフォンバンキングサービス

電話一本で、各種お取引・サービスがご利用いただけます。お振り込み・お振り替え・残高照会・定期預金お取引に加えて、6月11日からは投資信託取引もスタート！ますます便利になりました。郵送で手続きが完了するメールオーダーサービスも好評です。ちば興銀テレフォンセンター（銀行休業日を除く平日9：00～21：00）フリーダイヤル 0120-89-7850

#### インターネットバンキングサービス

銀行に足を運ばずに、ちば興銀とのお取引が可能です。預金残高照会・入出金明細照会に加えて、7月からは海外旅行傷害保険取引（安田火災海上保険と提携）も開始しました。詳しくはちば興銀のホームページをご覧ください。

iモード対応の携帯電話でご利用いただけるモバイルバンキングサービスも便利です。

法人のお客さまの資金決済などには、EBサービスもご用意しています。

ちば興銀EBサービスセンター（銀行休業日を除く平日9：00～17：00）  
フリーダイヤル 0120-122-606



# 地域貢献活動

## 文化・スポーツ・地域社会に多彩な貢献活動を展開しています。

「地域とともに」「お客さまのために」「『親切』の心で」を企業理念に掲げ、地域の一員として明るく豊かな地域社会の実現に役立つよう、多彩な地域貢献活動を展開しています。

### 文化

#### コスモスコンサート

毎年6月15日「県民の日」に、千葉県などの後援のもとでJR千葉駅構内でオーケストラによる「コスモスコンサート」を主催しています。このコンサートは、ほかにも公的な行事や病院、福祉施設、支店ロビーなどでも随時開催されており、広くお客さまから好評を博しています。

#### 「美しい房総」写真展

県内に在住する写真家の傑作を、JR千葉駅コンコースで常設展示するほか、県民文化祭への出展、公共施設や支店ロビーでの展示を行っています。美しい郷土を見直していただくとともに、自然環境の保護にも目を向けているものです。

### 地域社会

#### コスモス交通安全協力会

激増する交通事故から子どもたちを守るとともに、広く県民の皆さまに交通安全意識を高めていただくため、千葉日報社の協力のもとで設立されたのが「コスモス交通安全協力会」です。1968年の設立以来、入学児童の交通事故への見舞金、弔慰金、交通事故防止に関わる各種事業を展開しています。

#### 「小さな親切」運動の推進

ちば興銀は、「小さな親切」運動千葉県本部事務局を担当し、県内の活動を支援しています。また、ちば興銀「小さな親切」運動推進本部および各支部では、花いっぱい運動、クリーンキャンペーンなど身近な親切を実践推進し、積極的な地域貢献を図っています。一方、ちば興銀「ともしびの会」は、給料日に全行員から寄金を募り、年末に介護施設などに贈呈しているほか、歳末助け合い等、地域社会のために少しでもお役に立てるよう活動しています。



### スポーツ

#### 各種大会の主催・後援・協賛

身障者スポーツ大会、少年サッカー・小学生によるミニバスケットボールなどの大会支援、スポーツの普及活動を積極的に支援しています。とりわけ千葉県ゲートボール連盟との共催で行っている「千葉興業銀行杯ゲートボール大会」は、県内最大規模に成長し、毎回熱戦が繰り広げられています。

### 企業の育成

地域の中小企業・ベンチャー企業育成のきっかけづくりとして行っている「千葉“元気印”企業大賞」(日本工業新聞社との共催)。大賞を受賞された企業にはあわせて「千葉県知事賞」も贈られ、県内外から高い評価をいただいています。平成12年からは、受賞企業・応募企業を中心に「千葉“元気印”の会」を設立。勉強会・講演会を開催しネットワーク化を進めるとともに、力強い県内の中小企業をさらに応援していこうとする活動を展開します。

